

## クビアカツヤカミキリの防除にむけて

3年3組17番 高橋魁星 3年3組20番 塚本晃樹  
3年3組24番 錦達生 3年5組29番 西崎柚翔

Keyword:「外来種」「環境問題」

### 1.はじめに

近年、日本にクビアカツヤカミキリという特定外来生物が中国やベトナムからの輸入木材や梱包用木材、輸送用パレットに潜み、侵入した。特定外来生物とは、外来生物のうち、生態系や農林水産業、人の生命、身体に被害を及ぼしかねない生物のことを指す。クビアカツヤカミキリは生息地を関西や四国、北関東全域と広げている。クビアカツヤカミキリは、日本にある桜や梅などを食い荒らすため、このまま放置すれば日本から綺麗な桜の木が減ってしまうという恐ろしい事態になりかねない。このような事実を先輩の発表で知り、桜の木がクビアカツヤカミキリにより食い荒らされれば、日本の風習であるお花見ができなくなってしまう。そのような事態を防ぐために桜の木をクビアカツヤカミキリから守ることを決めた。

### 2. 序論



(写真1 引用:成虫 左:雌 右:雄、日本花の会ホームページより)

<https://www.hananokai.or.jp/sakura/sakuramihonen-topic/sakuramihonen-topic-170616/>

#### ・目的

私達の目的は特定外来生物のクビアカツヤカミキリによる奈良県での被害の拡大を防ぎ、桜の木を守ることである。そのため私達は奈良公園バスターミナルレクチャーホールで行われるサクラ見守り隊ボランティアの講習会へ参加し、奈良市の桜並木でのクビアカツヤカミキリ調査をした。調査方法はクビアカツヤカミキリの活動期間に奈良県奈良市中山町西2丁目にある泉橋北詰から左右600mまで続く秋篠川の桜並木でクビアカツヤカミキリの幼虫が出すフラスがないか、クビアカツヤカミキリがいないかなど、木を一本ずつ目視で確認した。

日本でクビアカツヤカミキリは2012年ごろに愛知県で初めて発見された。そして2018年1月に特定外来種に指定された。その後、埼玉県、徳島県、群馬県など、13都道府県に広がり、奈良県にも2019年ごろに侵入した。2021年には奈良県北西部に被害木が発生し、2023年現在には更に被害が拡大している。クビアカツヤカミキリの移動手段は人間の車などであるため、捜索が難しくなる。飼養、保管、運搬、輸入、野外への放出などは原則禁止である。クビアカツヤカミキリは桜などの木の幹の中に卵を産み、木の中で幼虫は育つ。幼虫は、直径2~3mmと小さく、4~10月に、木の内部を食害する。彼らは非常に繁殖力が強く、メスは、一匹で約300個以上の卵を産むことが可能で、在来カミキリの10倍の約1000個の卵を産むこともある。クビアカツヤカミキリが

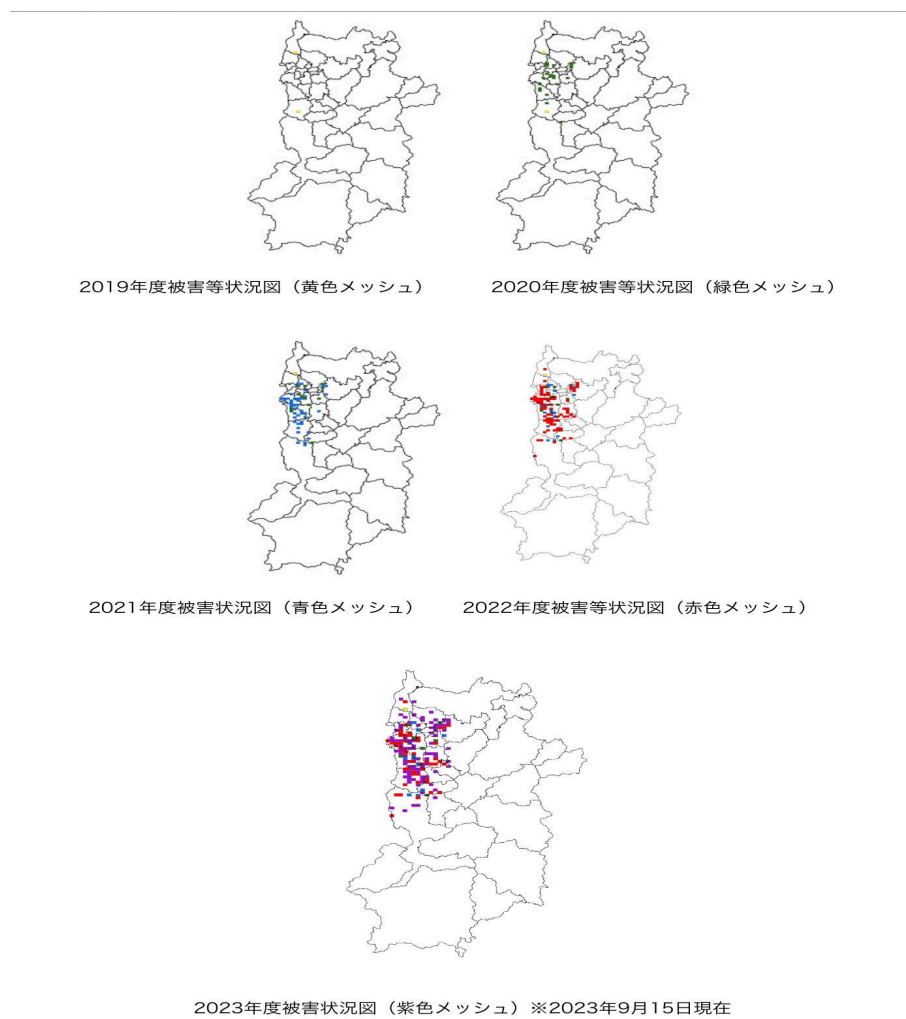
与える被害は、水分を送る器官などを傷つけたり、幼虫が幹の内部を食い荒らしたりするため、木が枯れてしまうことも多い。このような被害を見つけるポイントは早期発見に努めることだ。4～10月には幼虫が出すフラス、そして5月から8月には成虫となった虫の脱出孔を見つけることだ。フラスとは、幼虫の摂食活動で排出される木くずや糞などが混ざったもので、幹に付着したり地面に堆積していることが多い。

### 3. 本論

#### 結果

##### ・講習会への参加

2023年6月25日に奈良公園バスターミナルレクチャーホールで、サクラ見守り隊ボランティア隊員講習会に参加した。ここでは、クビアカツヤカミキリによる奈良県内の被害状況、クビアカツヤカミキリの調査・駆除の方法などを学んだ。例えば、伐倒駆除やクビアカツヤカミキリが見つかった樹木へのネット巻きの方法などである。



（引用：奈良県クビアカツヤカミキリについて奈良県の被害等確認状況

<https://www.pref.nara.jp/53306.htm>）

##### ・クビアカツヤカミキリ調査

私たちは、奈良県奈良市中山町西2丁目にある泉橋北詰から左右600mまで続く秋篠川の桜並木で、クビアカツヤカミキリの調査を2022年と2023年にそれぞれ1回ずつ、桜の木の見回りを2022年と2023年にそれぞれ1回ずつ行った。秋篠川上流域には合計179本のサクラの木があり、調査では、木は衰弱していないか、健康な木に比べて葉の枚数はどう

か、木からクビアカツヤカミキリの幼虫のフンと木屑が混ざったフラス(写真2)は出ていないか、木の根元などにきのこ(写真3)が生えていないか、などの調査を行った。2022年10月20日の1回目の調査(西崎・錦・高橋が参加)では150本の木を調べた。そのうち健康な木が130本、衰弱が0本、きのこが生えていた木が20本だった(図1)。2023年5月15日の2回目の調査(西崎・錦・塚本が参加)では179本の木を調べた。そのうち健康な木が167本、衰弱が0本、きのこが生えていた木が12本だった(図2)。計2回の調査でクビアカツヤカミキリは発見されなかった。



(写真2 引用:クビアカツヤカミキリのフラス <https://www.pref.nara.jp/53306.htm>)



写真3サクラの木下に生えたきのこ

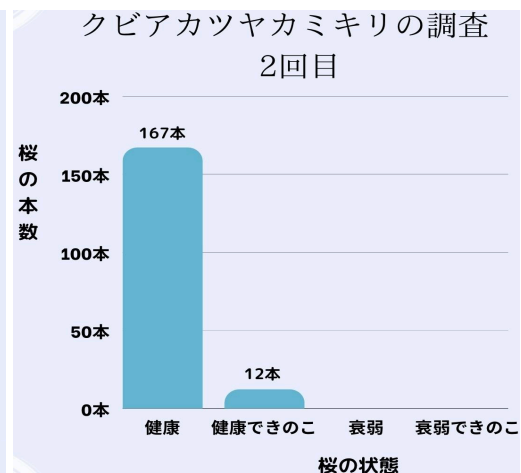
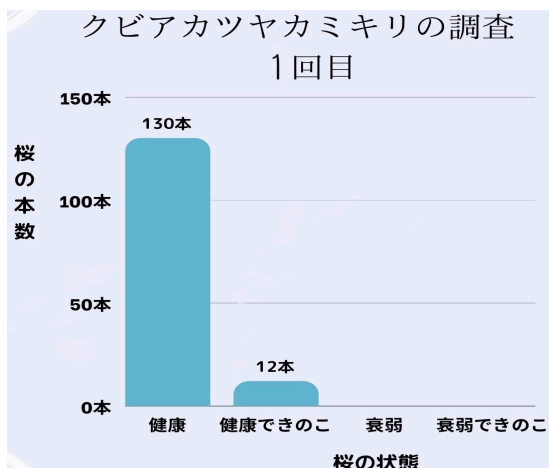




図1:2022年10月20日調査結果

図2:2023年5月15日調査結果

#### 考察

今回の調査結果から、秋篠川にクビアカツヤカミキリはおらず、広がっていないことが分かった。しかしクビアカツヤカミキリは今後も生息地を増やす可能性がある。またこれから先クビアカツヤカミキリのような外来種が日本に侵入するのを防ぐために、海外からの輸入の際にどのようなことができるかを考えていきたい。

#### 4. 結論

私たちはクビアカツヤカミキリから桜を守るために調査を行った。私たちは限られた回数しか調査はしていないが、クビアカツヤカミキリのフラスの有無についてや、桜の健康を確認し、奈良県に報告することができた。クビアカツヤカミキリの拡大を防ぐために、今後も継続的に調査を行うことが必要となる。また、地域住民が協力することは大きな力になる。クビアカツヤカミキリについて知り、通勤・通学、散歩などの際に桜の木を見ることができれば、クビアカツヤカミキリの早期発見に貢献できることになる。一般の人による調査のため、精度は下がるかもしれないが、多くの目があることで防除できることもあるだろう。私達は桜が消えていっている事実をしっかりと確認して、一人一人が自分の行動の影響を考えて桜を守るという意識を持つべきだ。

#### ・今後の課題

今回の探究で奈良県内でのクビアカツヤカミキリの拡大を防ぐための調査はできたものの、これでクビアカツヤカミキリがこれ以上拡大しないというわけではない、そのため今後の課題は、桜並木の観察を続けて、クビアカツヤカミキリの早期発見、対処を行うことである。

#### 5. 参考文献・出典

「クビアカツヤカミキリについて」『奈良県公式ホームページ』<https://www.pref.nara.jp/53306.htm>  
／

「クビアカツヤカミキリの被害が発生・拡大しています！」『東京都環境局』  
[https://www.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/nature/animals\\_plants/400100a20191204115758336.html](https://www.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/nature/animals_plants/400100a20191204115758336.html)／、

「バラ科樹木の脅威クビアカツヤカミキリ」『森林科学』

<https://www.forestry.jp/content/images/2021/10/89.pdf>／、参照日:202. .

「クビアカツヤカミキリ」『環境省』

[https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/files/f\\_kubiakatsuyakamikiri\\_c.pdf](https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/files/f_kubiakatsuyakamikiri_c.pdf)／